

ヨウシュチョウセンアサガオ

ナス科，一年生



薬用・観賞用としての導入や輸入穀物への混入により侵入し、全国的に増加した。有毒植物で、神経毒のアルカロイドを含む。本県での発生実態は不明であるが、全面的に発生しているほ場も確認されている。

発生期間	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
			出芽	→	→	→	→	→	→	→	→	→
					→	→	→	→	→	→	→	→

※本県での詳細な発生期間は未確認



形態的特徴	葉は大型で質は薄く、第4葉以降は不揃いな大きな鋸歯がある。茎は赤紫色を帯び、直立して分枝が多い。草高は1mを越える。花は長さ7～9cmの白色又は薄紫色の漏斗形。蒴果には大小の棘が密集し、熟すと4片に裂けて種子を散らす。
生態的特徴	・1株当たり50個程度の蒴果をつけ、蒴果当たり600～700個の種子を含む。種子は4mm程度と比較的大きい。
化学的防除法	・土壌処理剤: 全般に効果は劣ると考えられるが、フルミオWDGの効果が高比較的高い。 ・大豆バサグラン液剤(全面)・アタックショット乳剤: 両剤ともに、幼植物に対しては一定の効果があると考えられる。
耕種的防除法	・侵入初期に、徹底的に手取り除草する。